



養鶏場システム Rondeel (2・後編)

プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペインラテンアメリカ学科卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてにおいて実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

採卵に際してRondeelシステム

——養鶏農家の利益向上と社会的に受け入れられる新しい養鶏システムのプロジェクト——で設備投資した分の価格差は気になるところだ。実際にオランダのスーパーマーケットで卵1個当たりの店頭価格を調べてみた結果、一般のケージ飼いの卵が平均約0・17セント、同じく放し飼いが平均約0・19セントに対して、Rondeel製は0・28セントだった。このRondeel製の価格は、放し飼いでオメガなどの栄養素を付加価値として配合された卵と同価格帯になる。比較するとかかなり高い。しかし、Rondeel製はジャガイモの繊維でつくられた環境に優しいパックケージに入っており、そのパックケージにはRondeelシステムのイラストが記載されている。また、6個、もしくは10個入りケースが一般的なオランダにあつて、3個入りと7個入りを販売することで消費者の目を引いており、手を伸ばす人もよく見かける。筆者もその1人だ。

現在は、そのRondeel卵を最大手スーパーマーケットで販売したり、KLM航空でRondeelの卵と鶏肉を使用したサンドイッチが提供されたり、大手外食チェーンに卵を採用してもらって普及に努めているそう。さらに、このプロジェクト

が気になった人は誰でも施設を見学できるほか、インターネットで鶏の様子を24時間動画で視聴可能な仕組みで消費者からの信頼を集めている。すべてを見せる「オランダならではのやり方だ」といえる。

Rondeelの開発は前回述べた政府関連機関だけで行なつたわけではない。養鶏農家や関連会社の代表者15人でミーティングを開き、彼らの経験と知識から率直な意見を交わしてプロジェクトに反映した。その結果、高さ5・5mのドーム型の屋内と屋外エリアを持つ施設の中は大きく次の4つのセクションに分けられた。

①ナイトエリア…産卵、採餌、休息で鶏が快適に過ごせるエリア。前回述べたVenogグループVenomatic社のハウジングシステムを使用し、室温や照明を管理している

②デイエリア…砂浴びや採餌など、鶏が自然行動できるエリア

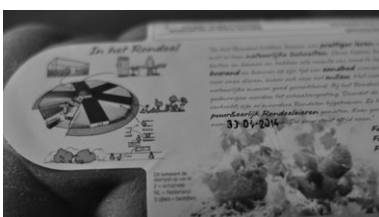
③遊びエリア…自然の気温で保たれている止まり木や探検エリア

④管理エリア…施設すべてを見渡せるエリア。採卵システムの設置、採卵した卵、餌などの保管、訪問者への施設案内場所としても活用できる

こうしていつでも訪問者へすべてを見せられる透明性もRondeelシ

ステムのキーポイントだといえる。さらに、ロジステイクスに関してもよくデザインされている。産卵に最適な巣で産まれた卵はベルトコンベアで管理エリアへ運ばれる。サイズの小さいもの、割れたものは自動的に異なる場所へ移される。そのため、生産者はワークロードの時間を減らし、その分、生産管理や全体を見渡して生産戦略を考えることに時間が割ける。

このプロジェクトを通じて、オランダ人が農業分野で新規開発するときの強みを理解することができた。それは工業化が行き過ぎていると消費者が感じている現状を打破するため、原点回帰して昔の生産方法に戻るのでなく、現代の技術や知識をもつて昔ながらの自然な環境を作り出すこと。また、実務者と意見を交わす機会を必ず持ち、さまざまな角度から納得するまで話し合うこと。そして、必ず商業的に成功する見込みがあるかどうかを考慮に入れることがオランダの強みだと考える。



プロジェクトストーリーと説明イラストが記載されたパッケージ